

第1部パネルディスカッション「一歩踏み出す令和な働き方～粹じゃなくてわくわく！」

パネリストの自己紹介を通じて、各氏はパイオニアであることが共通していると島田氏。なぜパイオニアになれているのかとの問いに、菊池氏は「熱量を持って仲間と取り組めた」、渡部氏は「行動力。一人でできることは限られているので、積極的に聞いて行動した」、山科氏は「勇気を出して踏み出し、行動した。また、決めたことは口に出して宣言してやる」、



土屋氏は「同じ熱量を持つ仲間が集まってくれた」とコメント。続けて、島田氏から「行動力はやろうと思うこと、その熱量はどこから来るか」との問いに、渡部氏は、「他人の考えも含めて自分事としてとらえて、自分軸になったとき」、菊池氏は、「自分の思いと社会的課題がリンクし、社会をよりよくするかもしれないと思えたとき」、山科氏は「悔しさがバネになっている」、土屋氏は「一人ではできないことでも、仲間と実現できそうなとき」と話しました。

次に、今回のテーマに沿って「どんなときにわくわくするか」には、土屋氏は「チームで企画を考えているとき。それを実現し、参加者に喜んでもらったとき」、山科氏「自分たちで何かを作っている、新しいことをつくっているとき」、渡部氏は「点と点をつなぐことができたとき。社員が望んでいることと会社が求めていることをつなぐことができて、1つの新しい制度を作ることができたときや、全然違うタイプの人が出会ったときに、新しい作用が生まれる」、菊池氏「人が大切にしている価値観に触れたとき」と説明。島田氏から「よい人生、豊かな人生を送るために必要なことは、強みを発揮することとわくわくを知っていること。では、自分のわくわくを仕事のどんな時に感じて、それがどんな結果に活きているか」の問いに対して、渡部氏は「自分のわくわくである人と人をつなげることによって、チームのメンバーもそれぞれの強みに気づき、チーム全体が生き生きしてきている」、土屋氏「自分のわくわくはほかの人を盛り上げるために使っている。直接自分ではできないことでもメンバーが形にして、喜んでいて人を見るのは嬉しい」、山科氏「新しいことをすることが好きだが、まったく新しいものを作り上げるというよりは、インバウンド向けに、地域の素材をブラッシュアップすることで、喜んでもらえるとわくわくする。また、そのことによって、関わった地域の人たちももっと何かしたいとモチベーションが上がっているのを見るのもわくわくする」、菊池氏「自分だけではなくメンバーとわくわくを共有することで、新しい価値観が生まれたりアイデアが広がるのが嬉しい」と答



えました。島田氏は「よい感情は伝播するというリサーチ結果がでていますが、わくわくの連鎖が起きている。皆さんはその発祥の人になっている。アイデアが広がるという意見もあったが、科学的にも脳の動きが証明されている。嬉しい、良い感情を持っているときに脳は広がり、より情報を得ることがわかっている。自分がわくわくすることを意識していると、それに関する情報を勝手に取るようになる。脳に入る情報が変わると行動が変わる。行動が変わると結果が変わる。だから、わくわくしていることは本当に大切なこと。どうせやるならよい感情を持ってやろう」と会場に呼びかけた。



島田氏から今回の感想や今日のテーマへの皆さんりのアドバイスをと促され、菊池氏は「私自身これから社会人になっていくうえで、わくわくすることを大事にこれから人生を歩んでいきたい」、渡部氏「わくわくポイントをみつけるために、自分の棚卸をしてみてください。自分の棚卸をすると嫌なことも見えてしまっただけをしたくなることもあると思うが、それをやることで自分もここまで変

わった。いろいろな苦手なことを克服してわくわくすることの大切さを知って、今ここで皆さんの前でお話できている。ぜひ、自分の棚卸からしてほしい」、山科氏「まだ小さい会社だが、私のモットーはハッピーな会社にすること。仕事をしていけば嫌なこともいっぱいあると思うが、そういう時に励ましてくれる仲間や環境があればハッピーになれる。家に帰って嫌な失敗をずっと持ち続けていると嫌な循環しか生まれえない。会社にいるときにパートナーがミスしても励ますようにしているし、自分が失敗しても相手が励ましてくれるので、そういうところがわくわく働くにつながっている」、土屋氏は「人のわくわくするポイントは探しても、自分のわくわくは意識していなかった。私たちの施設は子どもの施設だが、大人がわくわくして楽しそうだといいと思っている。子どもが大きくなって地元に戻ったときにあの大人たちかっこよかったねと思われる施設の人になれたらいい」と発言しました。

最後に島田氏から「渡部氏が言ったように、自分を知ることからスタートすべきだと私も思っている。その時には嫌な部分も見えるかもしれないが、それを否定するのではなく、それも含めて自分。なので、まず、自分を満たす、自分がいるということを認めるということからしか生まれえない。自分とつながってほしい、まず自分のことを最初に考えてほしい、自分のことを認めて、最後に自分で自分にいいことをしてほしい。自分を大切にしてほしい」と締めくくりました。